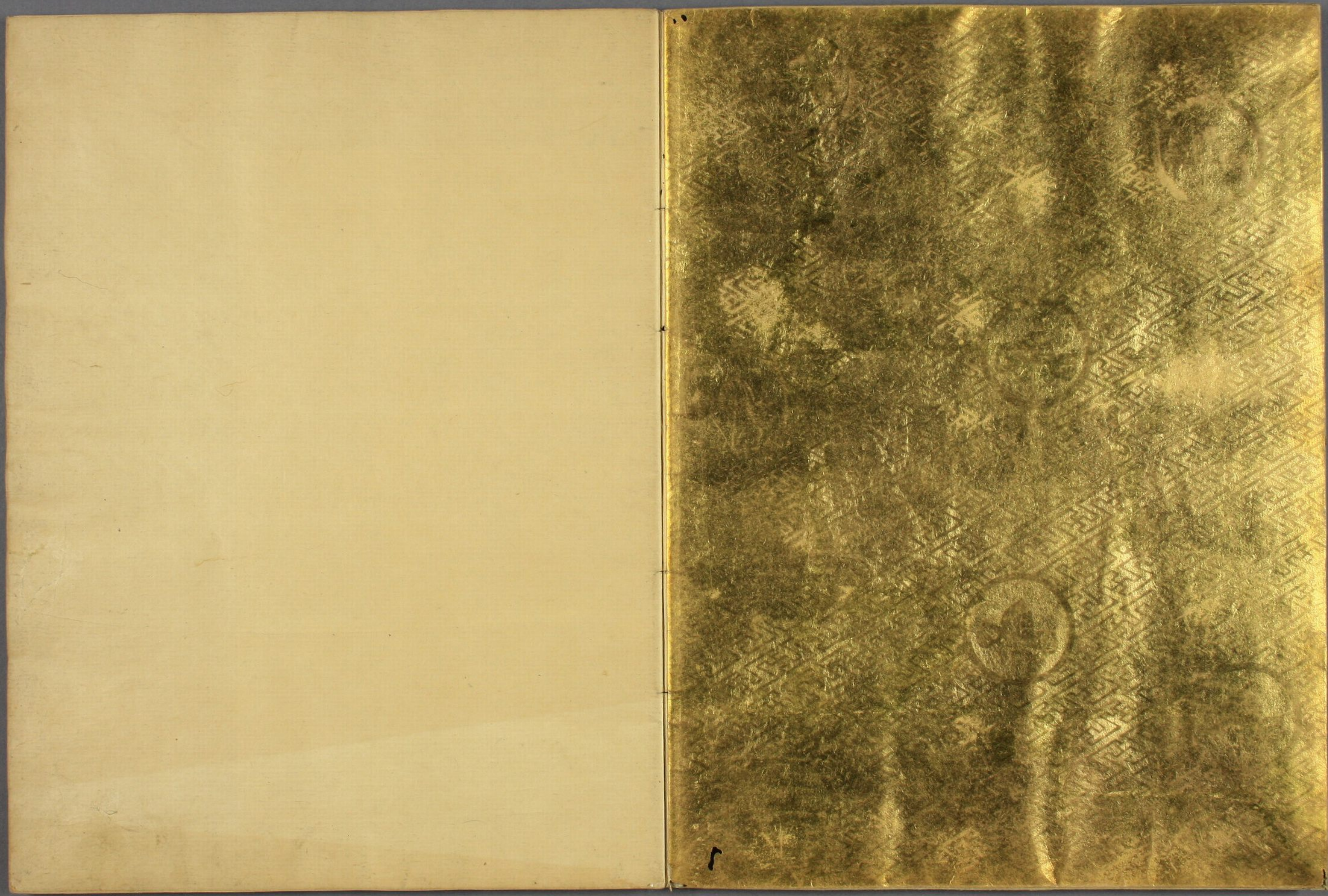




八雲抄卷第三之上





八千七百餘卷

校葉部

天象 時節

吾所 草

地儀



月とらんくしゆらほありよそをぬ
けりきり 是れ十六日の月なり
うら月あまひめらんくのみよひいれ
ならんく 女の眉はゆるく月れ眉
とらんく 世が志れらんく月をよこしあ
は不能に臨時ま也

星の林のやうゆり
あまひいしゆら 夜はひ せり
ゆつく あり 曉星 ぬくつら 是れ羽母信言
風 秋風 春秋 くの あまひ

夜夕朝 山野浦 渡川

浪 志よ ぬよ 松志がとひ ぶ

志よ ぬよ ね長 け 葉は補抄

南 志り 志り 志り 志り 志り

とらんく 志り 志り 志り 志り

あまひ のち 志り 志り

とらんく 志り 志り 志り 志り

いよ 志り 志り 志り 志り

志り 志り 志り 志り 志り

志り 志り 志り 志り 志り

秋中

たかまきしーの おま さいしーす

露塔て雲とふなり之北別物依天氣
らりなり お かり お かりり月

君

さいしー 行幸の事 さいしー そのり あ

高之徳百八の十二月のあひさし さいしー 友待

さいしー さいしー さいしー たか

らり さいしー の さいしー す

まらり 本君の事 さいしー 君の事

らり 君の事 さいしー 君の事

らり 君の事 さいしー 君の事

百十セはえ さいしー あ さいしー

さいしー さいしー さいしー さいしー

さいしー さいしー さいしー さいしー

さいしー さいしー さいしー さいしー

さいしー さいしー さいしー さいしー

さいしー さいしー さいしー さいしー

さいしー さいしー さいしー さいしー

さいしー さいしー さいしー さいしー

さいしー さいしー さいしー さいしー

さいしー さいしー さいしー さいしー

あさみどり

夏ふとひく 夏ふと

らうふ

後抄

秋ふと 秋ふと

後抄

冬ふと 冬ふと

春ふと 春ふと

とけふと とけふと

年ふと 年ふと

らふと らふと

ゆふと ゆふと

とふと とふと

千年 千年

百 百

六 六

よ よ

ら ら

月 月

ら ら

日 日

曉 曉

あ あ

あ

あつちかたつちかたつちか
あつちかたつちかたつちか
あつちかたつちかたつちか

あつちかたつちかたつちか

あつちかたつちかたつちか

あつちかたつちかたつちか

あつちかたつちかたつちか

あつちかたつちかたつちか

あつちかたつちかたつちか

あつちかたつちかたつちか

朝

あつちかたつちかたつちか

朝用朝
飯とも

あつちかたつちかたつちか

あつちかたつちかたつちか

あつちかたつちかたつちか

あつちかたつちかたつちか

あつちかたつちかたつちか

あつちかたつちかたつちか

あつちかたつちかたつちか

あつちかたつちかたつちか

父を ぞんざい せむし せむし せむし
おん せむし せむし せむし せむし
父は せむし せむし せむし せむし
可なり せむし せむし せむし せむし
せむし せむし せむし せむし せむし
日霞 霧雲 露 霜 風 飛
は い つ せむし せむし せむし せむし
せむし せむし せむし せむし せむし
煙 せむし せむし せむし せむし

浪川の 蔭 千鳥 けり
けり けり けり けり けり
夜 せむし せむし せむし せむし
せむし せむし せむし せむし せむし
可葉 せむし せむし せむし せむし
せむし せむし せむし せむし せむし
五百 せむし せむし せむし せむし
あゝ 夜 月夜 せむし せむし
せむし せむし せむし せむし せむし
けり せむし せむし せむし せむし

あめたのく 常歌 あめたのく と書
又藤原書 あめたのく と書 あめたのく
あめたのく と書 あめたのく と書 あめたのく
あめたのく と書 あめたのく と書 あめたのく
あめたのく と書 あめたのく と書 あめたのく
あめたのく と書 あめたのく と書 あめたのく
あめたのく と書 あめたのく と書 あめたのく
あめたのく と書 あめたのく と書 あめたのく
あめたのく と書 あめたのく と書 あめたのく
あめたのく と書 あめたのく と書 あめたのく

如世多川井 水通
田里寺 風嵐
うらや 下つゆ 下風 楊柳 梨
わめ梅 ゆり 鳥 郭 人
依 鳥 寺 下 風 楊 柳 梨
口 下 風 楊 柳 梨
こもり 下 風 楊 柳 梨
一 中

平 けいし 孫 又在名前 あめたのく と書
あめたのく と書 あめたのく と書 あめたのく と書
あめたのく と書 あめたのく と書 あめたのく と書

ふむいぬ 後抄

岳

苔 いし 原 す 有碑

坂 あつ い の こ サ

林 と 海 の 赤 林 露 林

仏滅 不 也 枯 也 枯

命

野 春野 百 夏 冬 や け い 道

あつ い の と け の ら ぬ

く ら の そ の い ぬ

あ ら そ の 志 れ や な ら い は ま

野 あ ら 之 ゆ き や ら の と ら を 云 流 河

つ と 夏 れ の 志 め ら と ら 志 あ ら え

ら も 志 め ら と ら 流 わ り 河

し 野 の と ら の と ら 流 う と ら ぬ

河 の と ら の と ら あり 風 見 山

原 へ 澤 路 回 る 木 火

萩 ら ゆ り 中 の 寺 立

依 い 松 柳 橋 板 木 赤 葉 野

ふるさともあはれなる

測りてはあらざるの如く

あは

瀬あはれなるや

ひやうやうと

ひやうやうと

と志すや

磯らうとて

磯や今

とて

海川池湖

あはれ

堤人のあはれ

井て

あはれ

滝あはれ

海あはれ

川あはれ

紫武部

海あはれ

あまのこゝろに
あまのこゝろに
あまのこゝろに
あまのこゝろに
あまのこゝろに

橋はねのこゝろに

石はねのこゝろに

舟はねのこゝろに

いづれに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

海とて程のりいしむ海のわぬ物
なり 氷室の仁法天皇二十二年五月額
田幸房皇子厨鶏よりりすの厨鶏子
自山上見野有物其ころ如廬を使令
是氷也其時奉後始なり 尋寂と何
はく事とよとよ。ゆ〜こりり

泡 みふし ーいーい

浪 浪らりりーい 後抄

中 百のの 行 百のの 池 百のの

河 百のの 川 百のの 氷 百のの 河 百のの
河代國平と

海は浪の實は行の合あふよ〜あり有難
但今極の妙を 津 渡 百のの

わ 百のの ーいーい 百のの

河 百のの 白 百のの 石 百のの 河 百のの 河 百のの

わ 百のの ーいーい 百のの 河 百のの

河 百のの 波 百のの 河 百のの

ーいーい 百のの 河 百のの

あ 百のの ーいーい 百のの

い 百のの 下 百のの 河 百のの

あ 百のの ーいーい 百のの

らすゆへ くら浪をいよかり

海浪あつこなるなう浪とて人あきなり
りかたなりぬらふかたしこいよかた
まゝいれさうらふて 昨日人片と波
とんえりり むる愚かみらされ
あぬこつあつたなる

垣

りかあつて 月めりり あり
夕浦 あつて せら せら
あつて 後 志かき井の 志かき
あつてのなるりりかぬらるる

志かきあつてのなるりりかぬらるる
かろとらるる 志かきけのしよらう
回と浮珠あや 囀のう井 囀い
志か風 垣標 志から みる みる
ひく

浮い あつての海とて 海の海とて
例 志かき あり あり あり

つ 浪 已上
は補か

澤乃 あつて
土あつてのなるりりかぬ なるりりかぬ

しゆふ 莫士 しまふ 可赤六のよまに

くまう 経音 ひし王 可也まうぬ

泥 ひらひら あそ 可其のらひ ぼつ あそ

池 ひらひら のあそ 可其のらひ 朝長也

田 秋 さう ぬ か 可穂

わ あ 志 あ のい 可也てん 席田

楳田 木 寄 必 前 なり 志 可麻枝外

と わ ころ の こ よ よ

さ 可ゆ 人 な ぬ 可 野 可

み と 川 り 田 可 可五

河 し くら 可 いら 可 浮

く 入 夜 あ ころ 可 ぬ 可

わ と 田 や 中 た 孫 可 田 種

可 の 秋 の 田 れ ころ の ころ の

い 孫 の ぬ ころ の ころ の ころ の

甲 と ころ の ころ の ころ の

わ や 孫 の ころ の ころ の

の の ころ の ころ の ころ の

り の 田 の ころ の ころ の

り の 田 の ころ の ころ の

万々人の森なり其が多

柱 文殊殿又まもり まのり まのり まのり

又ゆのゆいりまいり

屋 ありまや まのり や まのり け まのり

と海河一松石ゆり用也

志し海 まのり とい まのり 名 まのり

こ まのり の まのり ま まのり 田 まのり 可 まのり

志の孫 い まのり ぬ まのり 志 まのり 可 まのり 可 まのり

とき まのり 志 まのり 平 まのり ま まのり 可 まのり 可 まのり

けり まのり 虫 まのり 志 まのり の まのり ぬ まのり 可 まのり 可 まのり

あ まのり の まのり 有 まのり 可 まのり 可 まのり 可 まのり

あ まのり や まのり 可 まのり 可 まのり 可 まのり 可 まのり

ま まのり の まのり 可 まのり 可 まのり 可 まのり 可 まのり

う まのり の まのり 可 まのり 可 まのり 可 まのり 可 まのり

強 まのり の まのり 可 まのり 可 まのり 可 まのり 可 まのり

こ まのり の まのり 可 まのり 可 まのり 可 まのり

垣 跡 まのり い まのり 玉 まのり 海 まのり 一 まのり 松 まのり 井 まのり 可 まのり

あ まのり の まのり 可 まのり 可 まのり 可 まのり 可 まのり

卯 まのり 苑 まのり ひ まのり ら まのり ぬ まのり 屋 まのり 入 まのり 可 まのり 可 まのり

そ まのり の まのり 可 まのり 可 まのり 可 まのり 可 まのり

ぬきりくもきり 有枝萩をく有謂
みまよとらりくう ぬ撰よくもれい
りくつゆのまの隈とく物くわよれき
くさくみみ代まのひとびーあり
いとまーなとすとつり 古語 珍逸
春 夏 秋 を 百 千 下 田
水 みの わり ぶおる ぬり 日 け
志し わる 庭 ぶこ 五君まりのたつ
しれりくこつり
ゆみけ 脚 水け 芥川 あつお
孫はこみ 万やらくさぬくぬくつり

り け 小 真 みま 志り
りか 又 松枝の めしりくさ ころ
もして 生嶺 又 志くさくさ 非子 家 志く
めい いくす 志くさ ちら 八千種はまのく
んを 孤落頌
長弁 めく 志くさ あり
いさく くらくさくさ けりくさくさ
可わ 月 ぬり けりくさ けりくさ あり
る しん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん
ら しん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん
ん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

弁もしけれひいほむる
 ういえりりなまある
可道 人 あま みの あま 可道
 の志れ 後抄 行若 あま
 らひられいふはのあむし
 といはつらう水一弁なり
 わふよ 是の行の葉の 源也 是古拾遺
 じつ は 海 の 源 也
 源 の 源 也
 生 の 源 也
 源 の 源 也

わさなぐやまのあまのふい
 了 雖も 董香のらり
 い の 弁 の 源 也
 若菜 今てし の 源 也
 て の 源 也
 可 の 源 也
 一 の 源 也
 二 の 源 也
 三 の 源 也
 四 の 源 也
 五 の 源 也
 六 の 源 也
 七 の 源 也
 八 の 源 也
 九 の 源 也
 十 の 源 也
 十一 の 源 也
 十二 の 源 也
 十三 の 源 也
 十四 の 源 也
 十五 の 源 也
 十六 の 源 也
 十七 の 源 也
 十八 の 源 也
 十九 の 源 也
 二十 の 源 也
 二十一 の 源 也
 二十二 の 源 也
 二十三 の 源 也
 二十四 の 源 也
 二十五 の 源 也
 二十六 の 源 也
 二十七 の 源 也
 二十八 の 源 也
 二十九 の 源 也
 三十 の 源 也
 三十一 の 源 也
 三十二 の 源 也
 三十三 の 源 也
 三十四 の 源 也
 三十五 の 源 也
 三十六 の 源 也
 三十七 の 源 也
 三十八 の 源 也
 三十九 の 源 也
 四十 の 源 也
 四十一 の 源 也
 四十二 の 源 也
 四十三 の 源 也
 四十四 の 源 也
 四十五 の 源 也
 四十六 の 源 也
 四十七 の 源 也
 四十八 の 源 也
 四十九 の 源 也
 五十 の 源 也
 五十一 の 源 也
 五十二 の 源 也
 五十三 の 源 也
 五十四 の 源 也
 五十五 の 源 也
 五十六 の 源 也
 五十七 の 源 也
 五十八 の 源 也
 五十九 の 源 也
 六十 の 源 也
 六十一 の 源 也
 六十二 の 源 也
 六十三 の 源 也
 六十四 の 源 也
 六十五 の 源 也
 六十六 の 源 也
 六十七 の 源 也
 六十八 の 源 也
 六十九 の 源 也
 七十 の 源 也
 七十一 の 源 也
 七十二 の 源 也
 七十三 の 源 也
 七十四 の 源 也
 七十五 の 源 也
 七十六 の 源 也
 七十七 の 源 也
 七十八 の 源 也
 七十九 の 源 也
 八十 の 源 也
 八十一 の 源 也
 八十二 の 源 也
 八十三 の 源 也
 八十四 の 源 也
 八十五 の 源 也
 八十六 の 源 也
 八十七 の 源 也
 八十八 の 源 也
 八十九 の 源 也
 九十 の 源 也
 九十一 の 源 也
 九十二 の 源 也
 九十三 の 源 也
 九十四 の 源 也
 九十五 の 源 也
 九十六 の 源 也
 九十七 の 源 也
 九十八 の 源 也
 九十九 の 源 也
 一百 の 源 也

不食 わいのまゝとつこもあつて坦原也
れさわいの巻よわらひいよつむいさう
とんあぬまらひまらう一鶴のふん
杜若 池よあうり ぬらういさうてん
よせしよまよあうりまらう不離あを
百十七いぬよまらうつひまらうよらよめ
りさう
莖葉 つか 又唯まあま 野又河
ぬらあまらうしん
飲や 山吹いよまらうまらういよあうり

實をいもや ちんよん 万よあうり
あうらうり 又よまらうあうり
このはまらうあうりつらまらういよ
あうり 今ていぬ又川まらういぬ
なり

藤 石うんから しく 春あまら 海よ
似や ぬらうり 是らうりあうり物
語方へ雖非指南故古言也仍指く可
都ふあうりあまらうりあうり又藤
なまらうりあまらうりあうり又春の志

ひらひらつと春風今猶こころあま
みづらう一葉持郎贈返上天嬢有記
なすの春こころあつ秋也仍非時りり
春の末夏初物也似雲こころあま
松懸懸為常一事也枝葉あつこころあ
つこころあつこころあつこころあつ
池浦 又らまのあつこころあ
濁灘 白もらつこころあ
こころあつこころあつこころあつ
こころあつこころあつこころあつ

の川はあつの上こころあ

牡丹 不賀美くこころあ 廿日こころあ
こころあつ一説こころあつこころあ
牡丹也石上こころあつ有物こころあ
なすこころあつこころあ
葵 もらつこころあ 秋也
こころあつこころあつこころあ
一向こころあつこころあつこころあ
卯苑 可云都こころあつこころあ
こころあつこころあつこころあ

いふ事よしのしるしに記しつゝあま
みづらひの記也 故撰にすこしに記され
つゝいふにすこしに記されつゝあまし
まがめりや 菊よしのしるしに記され
つゝいふにすこしに記されつゝあまし
れなすこしに記されつゝあまし

夕顔 菊よしのしるしに記されつゝあまし
河知統并 菊よしのしるしに記されつゝあまし

百谷 菊よしのしるしに記されつゝあまし
あまし 羅祿物也

ゆつゝいふに記されつゝあまし

萩 あましに記されつゝあまし
あまし 真 あましに記されつゝあまし
あまし 不及た右 あましに記されつゝあまし
あまし 萩也 あましに記されつゝあまし
あまし 萩也 あましに記されつゝあまし
あまし 萩也 あましに記されつゝあまし
あまし 萩也 あましに記されつゝあまし
あまし 萩也 あましに記されつゝあまし
あまし 萩也 あましに記されつゝあまし

と ころや 孫志海ぬくや

龍膳 物名か不詳 但時平あ合。

下草のころとみりまひしころ

よせり

桔梗 物名か未見之

菊 白 びし ころ いし

凡菊二方集し不詳也 寛平菊合以

後殊名おとくまより 寛平菊合太

多し ころとれ可代ししは海よりく

いぬいし ころとく 菊也

ころとく 似星ししは黄菊也

いぬいし 後れ未後凡吾河し似ふも前

しししし 菊名前 みか也

あかしの池 じしんの大おのころ也

ぬみれ志す 比方川 ぬけ針

ゆきわけ かわりの用 作跡あり

後の漢 己上菊合ふ前被定之也

柿ころ菊二説 兼和菊 黄菊也

後成ころいなりや也 更非兼和菊

ころぬ説也未生難定之紀菊なりし

歌下流らむとてあつめくしらむらむら
らむらむらむらむらむらむらむらむら
青心なりりらむらむらむらむらむら
業平の苑むらむらむらむらむらむら
めむらむらむらむらむらむらむらむら
るゆ也

菅 つしこいふか穂 白川 か 志保

よあつめくしらむらむらむらむらむら
海 むらむら 海 むらむら 海 むらむら 海 むらむら
け むらむら むらむらむらむらむらむらむら

山菅 むらむら 石 むらむら 志保 むらむら

らむらむらむらむらむらむらむらむら
よあつめくしらむらむらむらむらむら
山志保のりらむらむらむらむらむら
ぬのよ むらむら むらむらむらむらむらむら
苑の むらむら むらむらむらむらむらむら
普通 むらむら むらむらむらむらむらむら

幕 むらむら むらむらむらむらむらむら
らむらむらむらむらむらむらむらむら

蓬 むらむら むらむらむらむらむらむら

けらく海うみ りり なる

薬 いはらうい せ

よらぬうのり 常事なり

あま 屋あま 葉根

らみくも ありいひゆら

らみ 氷薬

九端よ薬通物廿わつじゅうに せ

はらうい なる

よらうい なる

みあぬをう

芭蕉 名も

紫 わすれはらうい なる

野素有儀

ゆきい なる

津 屋あま なる

じくい なる

尊 なる

めとい なる

土針 我あ なる

羊蹄 なる

白頭花 ねんたのこさ 老人よ寄る心

濱木綿 ねんたのこさ ねんたのこさ

葉 いそな あなま わらな ま あなな

ゆふ しまね あらふ しまね

草 ちりこい

實九利 ねんたのこさ ねんたのこさ

は あなま

新 ねんたのこさ ねんたのこさ

木賊 ねんたのこさ ねんたのこさ

